

歴史を訪ねて...

笠岡市の文化財

遺跡とは、過去の人間活動の痕跡です。笠岡市では、実に三〇〇カ所以上の遺跡が確認されています。縄文時代の貝塚からは、貝殻に混じって縄文土器や石器、骨などが出土します。市内には、有名な津雲貝塚のほかに東村貝塚などが知られています。また、笠岡の駅前をはじめとして、かつて砂浜であった場所で、濃縮した海水を煮詰めて塩をとった古墳時代の製塩土器もたくさん見つかっています。奈良時代に、遣唐使の航海の無事を祈った祭祀跡といわれる大飛鳥遺跡も、海に関する遺跡といえます。

市内では数十基の古墳が知られていますが、なかでも長福寺裏山古墳群では、須恵器や埴輪など、様々な出土品が見つかっています。古代に、鉄鋳石を用いて製鉄をおこなった鉄塊遺跡や、七世紀の古代寺院、関戸庵寺跡もあります。山陽自動車道建設にもなつて発掘調査された園井土井遺跡では中世の館跡、鍛冶屋遺跡では弥生時代から江戸時代に至る各時代の遺物が出土しています。

今回紹介した遺跡からの出土品は、西の浜の笠岡市立郷土館で開催中の特別展「かさおか歴史再発見」(十八日まで)にて展示されておりますので、どうぞご覧下さい。



七つ塚一号墳の石棺から出土した土器
【長福寺裏山古墳群】

展覧会と行事のご案内

開館25周年記念

しごころ

詩心 竹喬
—竹喬美術館珠玉の数々から

2007.10.13～
2008.2.3

9時30分～17時
(入館は16時30分まで)

休館日：月曜日

入館料：一般500円
(65歳以上のおよび市内の小中学生は無料)

〒714-0087
笠岡市六番町1-17
☎63-3967
ホームページ
<http://www.city.kasaoka.okayama.jp/0013/0001.html>



彩雲

小野竹喬 作
昭和40(1965)年頃
24.4×34.2cm

竹喬美術館の光彩 59

「最初の発見や意図と表現が、いつもぴったりいくとはかぎりません。絵は、なによりも現在がたいせつです。こずえのリズムを発見した瞬間も現在なら、制作の過程の一つ一つも現在」
葉をすっかり落とした梢が、美しい夕焼けの空を自在に横切っている、そんな景色に出会った瞬間に制作は始まる。完成作には表現上の工夫や新しい発見が加えられるが、元になるスケッチには、竹喬がその景色を目にした瞬間の印象がとどめられている。

今月の表紙

9月30日、市民会館の改修工事完了の記念行事として笠岡市初の市民ミュージカル「カブニの遠足」が上演されました。

カブトガニをテーマに環境保全を訴える手作りの舞台。市民を中心に子どもから大人まで90人の出演者、スタッフ3ヶ月前から毎週休むことなく積み重ねてきた練習の成果を遺憾なく披露し、会場を埋め尽くした約900人の観客からは惜しみない大きな拍手が贈られていました。

係から

「食卓から季節感が消えた」と言われて久しいですが、季節そのものが暦と合っていないと感じるのは温暖化のためなのでしょうか。それとも長い時間で見れば、平均からの揺らぎのうちなのか。歳時記から季節を拾うのも一苦労です。晩秋から初冬へのこの時期、遅れて来た秋にはもう少し頑張ってもらいたいと思います。(良)



土屋武之

笠原良一

発行日／平成19年11月1日
発行／笠岡市役所
編集／企画政策課
〒714-8601 笠岡市中央町1-1
☎69-2110

印刷／(株)国輝堂 ☎67-5111

笠岡市ホームページ：<http://www.city.kasaoka.okayama.jp>
メールアドレス：kouhou@city.kasaoka.okayama.jp



※この広報は再生紙を使用し地球環境にやさしい植物性大豆インキで印刷しています。



古紙配合率100%の再生紙を使用しています